

#### D. 貨幣形態 (p94)

20 エレのリンネル = 2 オンスの金  
1 着の上着 = 2 オンスの金  
10 ポンドの茶 = 2 オンスの金  
40 ポンドのコーヒー = 2 オンスの金  
1 クオーターの小麦 = 2 オンスの金  
1/2 トンの鉄 = 2 オンスの金  
 $x$  量の商品 A = 2 オンスの金  
その他 = 2 オンスの金

(1) 形態 I から 形態 IIへの移行では、本質的な変化が生じている。これに反して、形態IV は、いまではリンネルに代わって金が一般的等価形態をもっているという事の他には、形態IIIと違うところは何もない。形態IVでは金は、やはり、リンネルが形態IIIでそれだったもの—一般的等価物である。前進は、ただ、直接的な一般的交換可能性の形態または一般的等価形態が、いまでは社会的習慣によって、最終的に、商品金の独自な現物形態と癒着 (verwachsen) しているということだけである。

(2) 金が他の諸商品に貨幣として相対するのは、金が他の諸商品に対して既に以前から商品として相対していたからに他ならない。すべての他の商品と同じように、金もまた、個々別々の交換行為で個別等価物としてあれ、他のいろいろな商品等価物と並んで特殊的等価物としてあれ、等価物として機能していた。次第に、金は、あるいはより狭い、あるいはより広い範囲のなかで、一般的等価物として機能するようになった。それが商品世界の価値表現においてこの地位の独占をかちとったとき、それは貨幣商品になる。そして、金が既に貨幣商品になってしまった瞬間から、はじめて形態IVは形態IIIと区別されるのであり、言い換えれば一般的等価形態は貨幣形態に転化しているのである。 (p95)

(3) すでに貨幣商品として機能している商品での、たとえば金での、一商品たとえばリンネルの単純な相対的価値表現は、価格形態 (Preisform) である。それゆえ、リンネルの「価格形態」は、

20 エレのリンネル = 2 オンスの金 または  
もし、2 ポンド・スターリングというのが 2 オンスの金の鑄貨名であるならば、  
20 エレのリンネル = 2 ポンド・スターリング である。

(4) 貨幣形態の概念における困難は、一般的等価形態の、従って、一般的価値形態一般の、形態IIIの、理解に限られる。形態IIIは、逆関係的に形態IIに、展開された価値形態に、解消し、そして、形態IIの構成要素は、形態I、即ち、20 エレのリンネル = 1 着の上着、または、 $x$  量の商品 A =  $y$  量の商品 B である。それゆえ、単純な商品形態は、貨幣形態の萌芽なのである。 (p96)